

管内の農業は、全道平均に比べ経営規模が小さい一方で、水稲や馬鈴しょ、豆類、野菜、酪農や肉牛、養豚など、バラエティーに富んだ農業が営まれています。

水稲は、道南で開発された「ふっくりんこ」を中心に「ななつぼし」や「ゆめぴりか」の特A品種、減農薬が可能な「きたくりん」などが栽培されています。

馬鈴しょは、南部では厚沢部町が発祥の地とされる「メイクイン」、北部では「男しゃく」が主に生産され、特に2019年に地理的表示（GI）を取得した「今金男しゃく」は、デンプン含有率が他産地の男しゃくの平均値より約1割ほど高く、厳しい選果基準により形状や外観が良いことから、市場では品質、食味ともに高い評価を受けています。

野菜は、アスパラガスやブロッコリー、ミニトマトなど多品目の生産となっており、特に上ノ国町は、道内有数のさやえんどうの産地となっています。

また、北部を中心に酪農・肉用牛経営が行われているほか、戸数は少ないものの養鶏や地域ブランドとなっている養豚も行われています。

このほか、厚沢部町では焼酎工場と連携したさつまいもの生産、奥尻町では島内で生産されたブドウによるワイン醸造などが進められており、上ノ国町では地元企業による大規模なトマト栽培が行われています。

振興局では、生産活動の基盤となる農業農村整備事業を計画的に推進し、ほ場の大区画化や排水改良など、生産性の向上と新たな高収益作物の導入・拡大などに加えて、スマート農業技術の積極的な導入による低コスト・省力化を推進するとともに、農業・農村を支える多様な人材の育成・確保に向け、地域が行う新規就農者の受入れへの支援など、檜山の農業・農村が持続的に発展するための取組を行っています。



「今金男しゃく」（GI登録）



ハウス立茎アスパラガス（厚沢部町）



さやえんどう（上ノ国町）

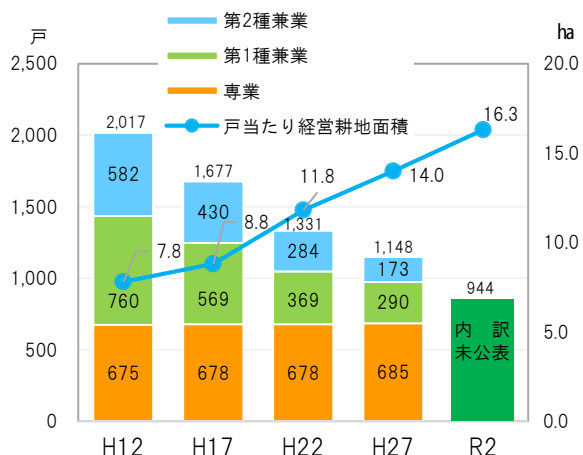


焼酎原料用
さつまいも
（厚沢部町）



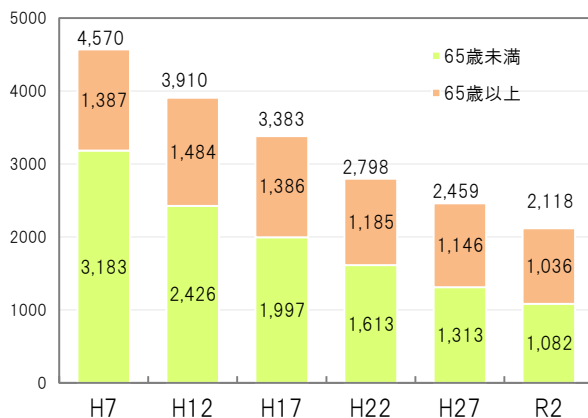
自動操舵
システムの導入
（厚沢部町）

●農家戸数及び戸当たり経営面積の推移 (単位: 戸、ha)



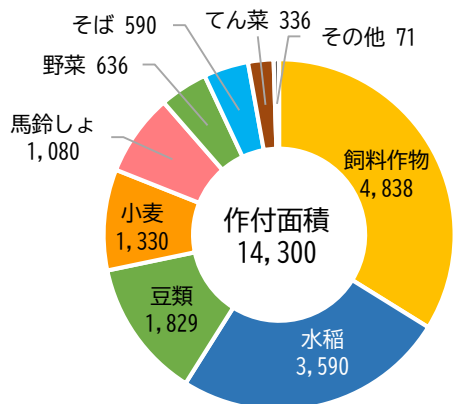
「農林業センサス」R2。H17までは旧熊石町を含む

●年齢別農業就業人口 (単位: 人)



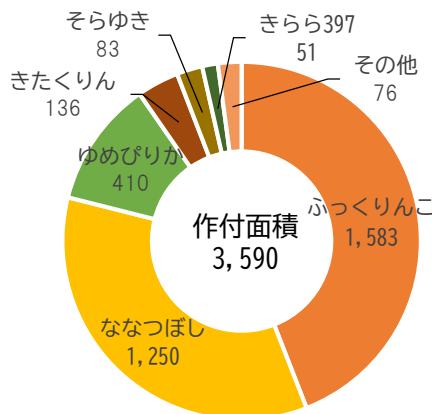
「農林業センサス」R2。H17までは旧熊石町を含む

●主要農作物の作付面積 (令和4年産) (単位: ha)



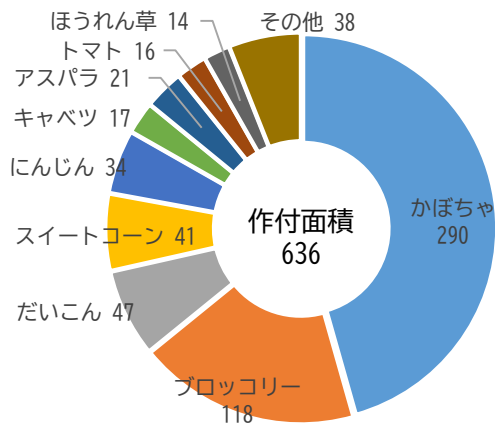
「檜山振興局産業振興部農務課調べ」

●主要水稲の作付面積 (令和4年産) (単位: ha)



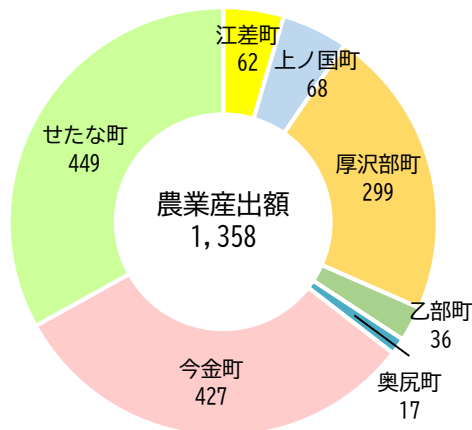
「檜山振興局産業振興部農務課調べ」

●主要野菜の作付面積 (令和4年産) (単位: ha)



「檜山振興局産業振興部農務課調べ」

●農業産出額推計 (令和3年) (単位: 千万円)



「農林水産統計年報」

管内は全道でも森林面積の割合が高く、土地総面積の82%を占める215,795haの森林を有しています。所管別では、国有林61%、道有林11%、一般民有林28%と全道の中でも国有林の割合が高く、スギやヒノキアスナロ（ヒバ）、ブナなど道南地域特有の樹種が生育しているのが特徴です。

主要な造林樹種はカラマツ、トドマツ、スギで、管内の造林面積の約7割を占めており、檜山ゆかりの木「ヒノキアスナロ」も継続的に造林されています。

間伐材は、スギやトドマツを中心に製材やチップ等に加工されており、公共建築物の木造化や農地整備の暗渠疎水材など地域における利用が進められています。

振興局では、ゼロカーボンひやまの実現に向けた二酸化炭素吸収源対策として、伐採跡地等への造林や間伐等の適切な森林整備を推進しています。また、子どもをはじめとするすべての人が『木とふれあい、木に学び、木と生きる』をキャッチフレーズとした木育の取組を推進し定着を図るため、七夕・クリスマスイベントの開催や植樹祭・育樹祭の支援を通じて、森林や木材とふれあう機会の充実を図るとともに、森林観察会や木工教室を実施するなど、青少年に学習の機会を提供しています。



ヒノキアスナロ（江差町檜山古事の森）



地域材を活用した公共建築物
（厚沢部町道の駅商業施設）

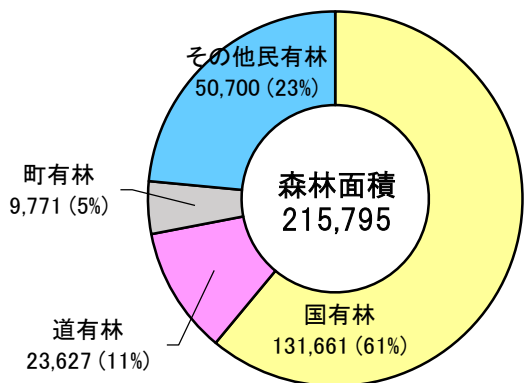


木工教室の様子



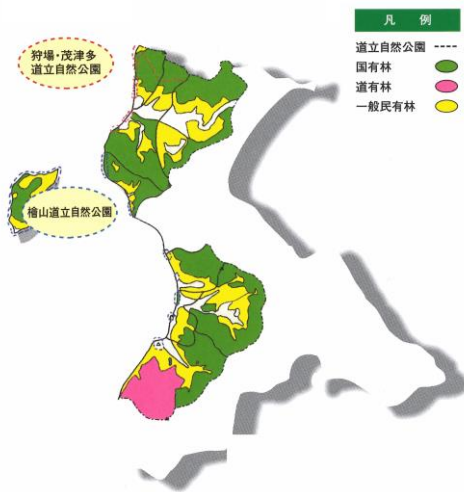
「育樹活動」の様子

●管内所管別森林面積（令和4年4月1日現在）（単位：ha）

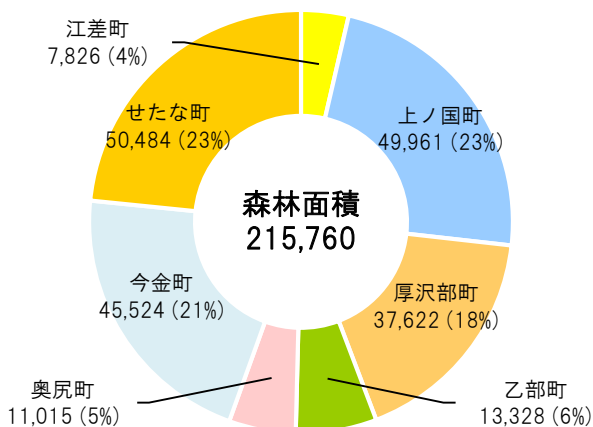


「令和3年度北海道林業統計」

●管内森林分布図

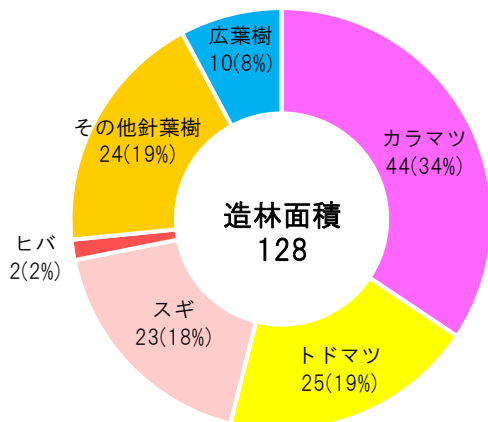


●町別森林面積（令和4年4月1日現在）（単位：ha）



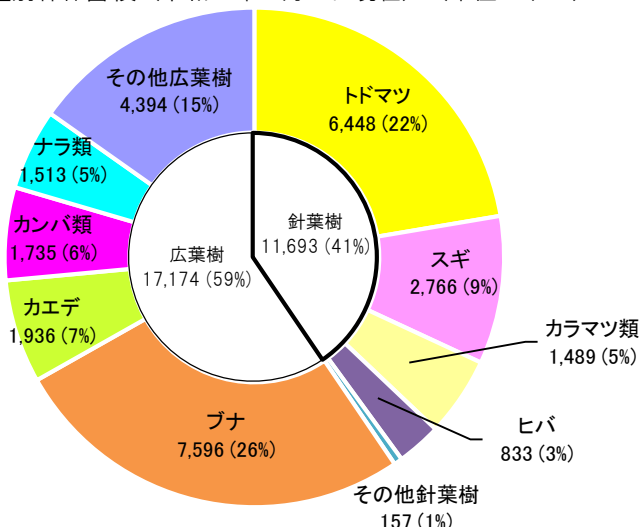
「令和3年度北海道林業統計」

●民有林樹種別造林面積（令和4年度）（単位：ha）



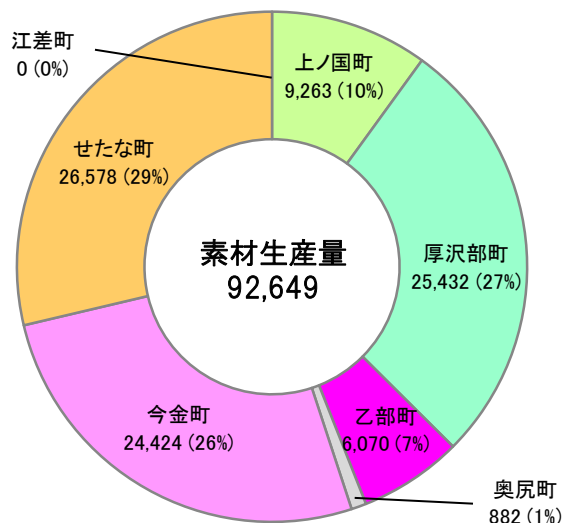
「令和4年度造林事業実績」

●樹種別森林蓄積（令和4年4月1日現在）（単位：千m³）



「令和3年度北海道林業統計」

●町別素材生産量（令和4年度）（単位：m³）



「檜山振興局産業振興部林務課調べ」

管内では、スルメイカやスケトウダラ、ホッケ等の回遊性魚類を主体とする漁船漁業を中心に、ウニやナマコ等を対象とした採介藻漁業やサケ定置網漁業等が営まれています。

近年、回遊性魚類の漁獲量が減少している中、漁業生産の回復・安定化を図るため、「つくり育てる漁業(栽培漁業)」の取組が進められており、ニシンの稚魚の100万尾放流をはじめ、ヒラメやナマコ等の種苗放流が行われています。

ニシンの大規模な産卵行動により海面が白濁する「群来(くき)」という現象は、檜山管内では100年以上発見されなかったのですが、平成29年、令和2年に江差町、令和4年に乙部町、令和5年には江差町、乙部町及び八雲町(熊石地区)の複数箇所を確認されました。

また、新たな魚種の推進や付加価値向上を行っていくため、令和5年に策定された「日本海漁業経営安定化方針」に基づき、漁港等の静穏域を活用したニジマス(トラウトサーモン)の養殖をせたな町、八雲町(熊石)、奥尻町及び江差町で実施し、新たな生産体制づくりを推進しています。

加えて、鮮度保持の処置が施された神経締め製品や未利用資源であるアカモクの販路拡大などの水産物の付加価値向上を図る取組が進められています。

特に、ナマコは漁業者が水揚げから加工・販売、ブランド化に取り組んでおり、2020年に「檜山海参(ヒヤマハイシェン)」として、地理的表示(GI)保護制度に登録されています。

一方、漁業就業者が年々減少し、高齢化が進行する中、新たな担い手を確保するため、檜山漁業士会がキタムラサキウニ体験漁業を実施し、漁業が就業の選択肢の一つとなるきっかけづくりに取り組んでいるほか、将来の独立就業希望者に対して、複数漁業の技術を習得するための研修が漁業研修所で実施されています。

魚食普及においては、檜山管内の小中学校で、漁業士会及び漁協青年部により、「育てる漁業体験塾」などを開催し、漁業に関する授業のほか、地元水産物を用いた調理を通して、檜山の漁業に関する理解促進を図っています。



ヒラメ稚魚 種苗放流



ニジマス(トラウトサーモン)の水揚げ状況

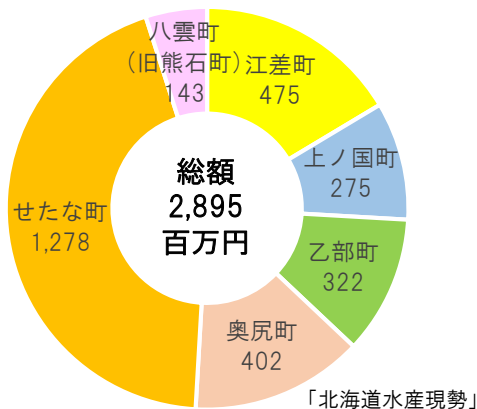


札幌市での販促

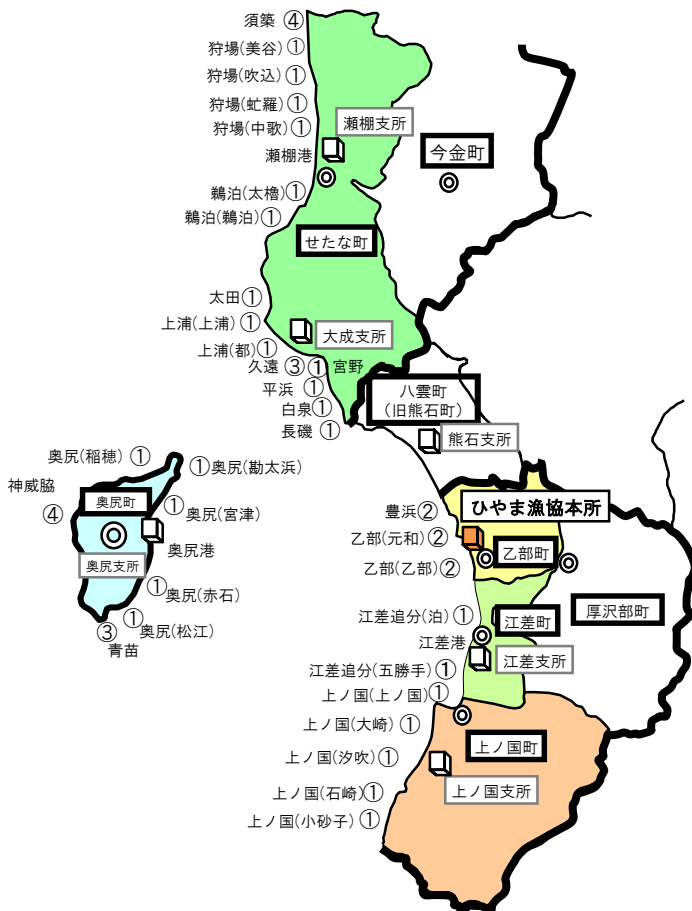


漁業士会による出前授業(調理実習)

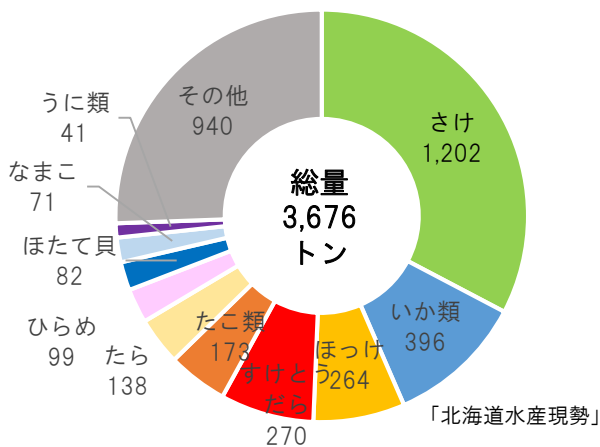
●町別漁業生産額（令和4年）（単位：百万円）



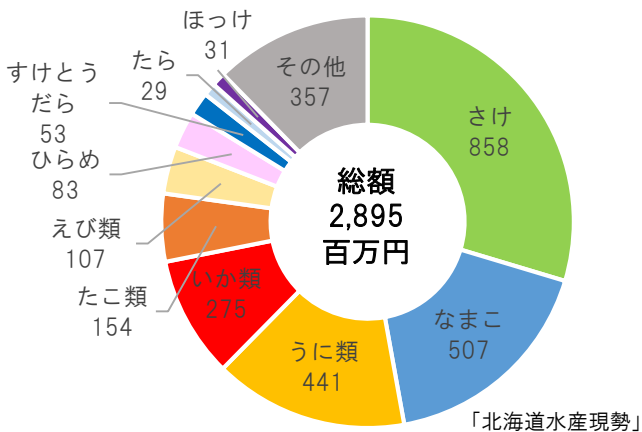
●檜山管内漁港・漁協位置図（令和5年3月）



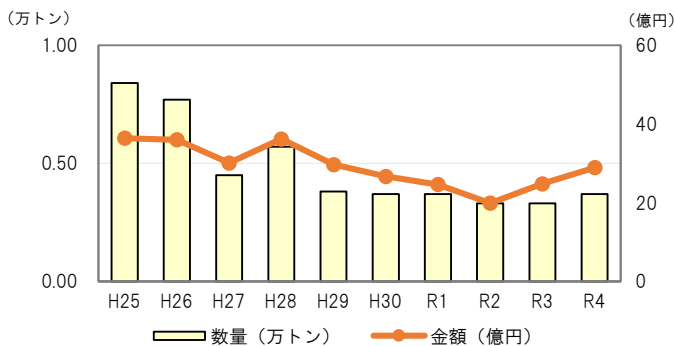
●魚種別漁業生産量（令和4年）（単位：トン）



●魚種別漁業生産額（令和4年）（単位：百万円）



●漁業生産量・生産額の推移（暦年）



	漁協本所所在地	1
	漁協支所所在地	6
①	第1種漁港	11(14)
②	第2種漁港	2(1)
③	第3種漁港	2
④	第4種漁港	2
	地方港湾	3

※（ ）は分区数

●檜山管内海岸線延長（令和5年3月）

海岸線延長	(単位：m)
瀬棚区	28,307
せたな町	
北檜山区	19,467
大成区	31,605
乙部町	14,483
江差町	20,689
上ノ国町	29,204
奥尻町	67,658
管内合計	211,413

(資料：渡島総合振興局函館建設管理部江差出張所調べ)

●商工業

管内の商業は、経営規模では従業員1～2人の小規模な事業所が全体の約半分を占め、商品販売額における小売業の割合が8割以上を占めるといった特徴が見られます。

また、少子高齢化の進行や函館など管外大型店への購買力の流出、経営者の高齢化・後継者不足などの問題を抱えており、管内卸売業・小売業の事業所数は減少傾向にあります。

こうした中、地元商店街や「まちづくり会社」による各種イベント開催など、地域経済活性化の取組が行われています。

製造業については、域内総生産に占める割合は全産業の3%程度になっていますが、振興局では、管内の恵まれた農林水産物を活用した新商品の開発や商品の磨き上げ、管外の物産展・商談会への出展による販路拡大など、食品製造業への支援に取り組んでいます。

●観光

管内では、道内最古の祭りといわれる「姥神大神宮渡御祭」(江差町)や、日本民謡の王様と呼ばれる「江差追分」、道南のセブン・シスターズ(イングランド南部のイギリス海岸に面した白い海食崖)ともいわれる異国情緒溢れる絶景「滝瀬海岸『シラフラ』」(乙部町)、「親子熊岩」(せたな町)等の日本海にそびえる奇岩など、いにしえから続く歴史・文化や、日本海の荒波を感じることができます。

また、農産物直売所やお土産が人気の道の駅「あっさぶ」や「上ノ国 もんじゅ」、道南一の雪質を誇る「ピリカスキー場」(今金町)、管内7町全てにある温泉もおすすです。

離島の奥尻町も、ウニやアワビなどの海産物、マリナーアクティビティ、日本初の離島ワイナリーなど、豊富な観光資源を有しています。

振興局では、管内の観光振興を図るため、体験メニュー開発・磨き上げに係る専門家招へいや、ガイド育成セミナーの開催、またSNSによるタイムリーな地域の魅力発信等に取り組んでいます。



「姥神大神宮渡御祭」(江差町)

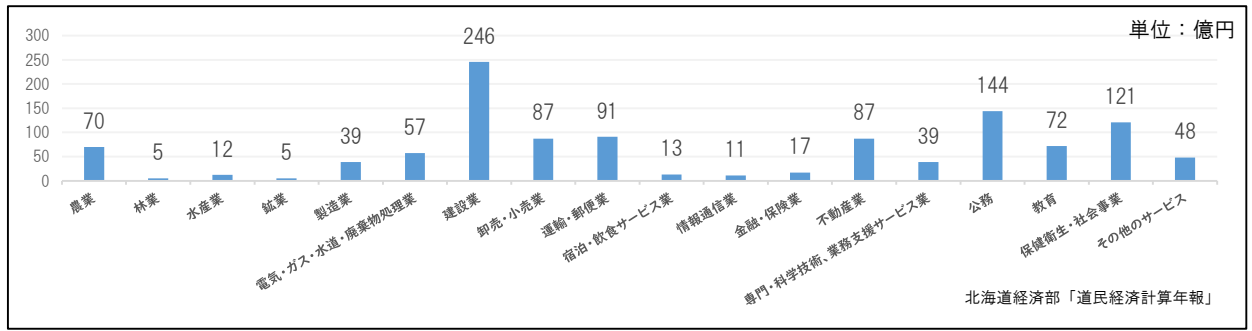


滝瀬海岸「シラフラ」(乙部町)

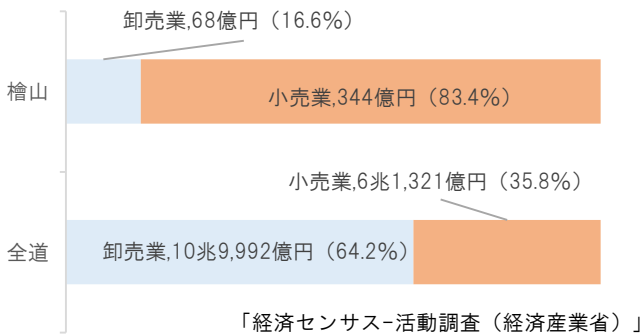
檜山管内のまちづくり会社

社名	主な業務内容
一般社団法人 江差観光みらい機構 (江差町)	・「かもめ島マリニング」等の体験メニューによる観光客受入促進 ・アンテショップ「ぶらっと江差」の運営
上ノ国開発株式会社 (上ノ国町)	・商品やサービスの企画・販路開拓・生産連携 ・「上ノ国ワイナリー」の運営
素敵な過疎づくり株式会社 (厚沢部町)	・「ちょっと暮らし」などによる移住定住促進 ・地域特産品等の販売
おとべ創生株式会社 (乙部町)	・地域資源を活用した商品開発 ・イベントの企画・出展

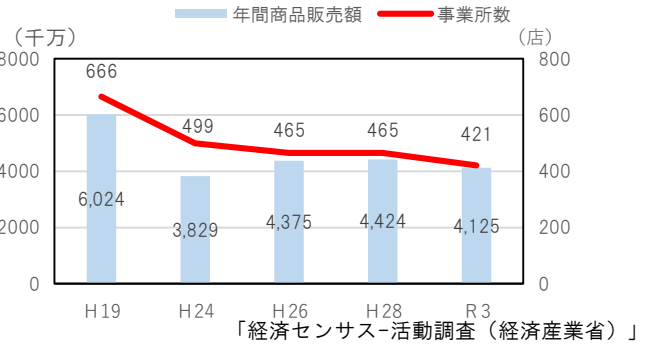
●管内域内総生産（令和2年）



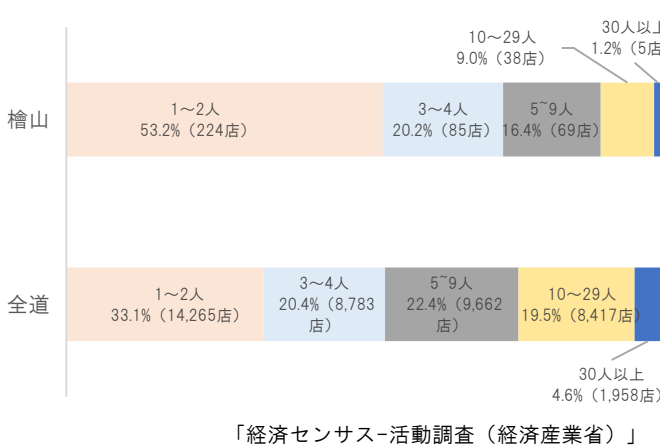
●商品販売額（令和3年）



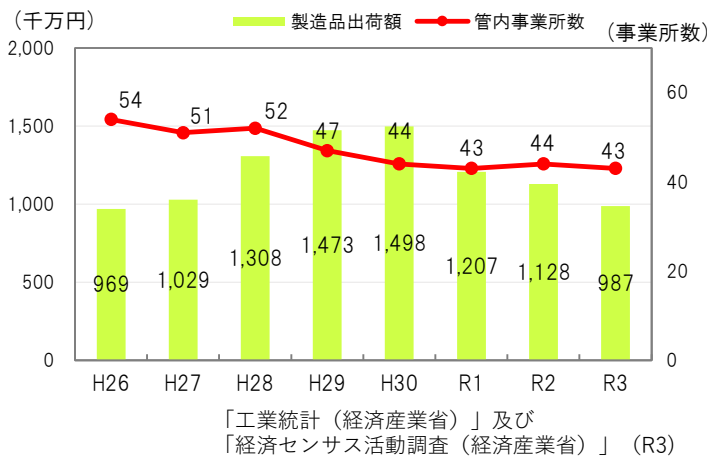
●管内卸売業・小売業 事業所数・年間商品販売額の推移



●卸売業・小売業の従業者規模別事業所数割合（令和3年）



●管内製造業 事業所数・製造品出荷額の推移



●町別観光入込客数（令和4年度）

町名	入込数（千人）
江差町	112.2
上ノ国町	244.1
厚沢部町	375.4
乙部町	77.2
奥尻町	24.7
今金町	116.1
せたな町	180.7
合計	1,130.4

「北海道観光入込客数調査（北海道）」

●観光入込客数の推移

